

# 『真光寺川 里親の会』通信

7月号 一通算第136号

2012年7月8日

## 真光寺川の植物の特徴

真光寺川の草を調べようとする、遊歩道から見下ろす形になり、分かりにくいのです。草に比較すると木は丁度、目の高さに枝と葉があり分かりやすくなります。この点から言うと、真光寺川はマグワとタチヤナギに代表されると言っても過言ではありません。ただ橋から開戸親水までマグワが川に点在して生育しています

マグワは俗にクワともいわれますが、ヤマグワと区別するために現在の植物学の方ではマグワとしています。養蚕、つまりカイコの餌として昔から植栽されてきました。中国原産の植物です。鶴川でもかつてはカイコが飼われ、マグワが植栽されていたのでしょうか。それが鳥などによって川に運ばれて生き残っているとも思われます。オスとメスの株があり、メスの株は果実をつけます。真光寺川には双方の株があります。川の植物としてタチヤナギも多く生育しています。真光寺川でヤナギの葉をみたらタチヤナギと考えてもいいようです。



マグワの果実

真光寺川にはかつては里山が現在よりせまっていたのでしょうか。平成橋から能ヶ谷橋にかけてミズキ、クマノミズキ、アカメガシワなどの里山の構成種が生育しています。もう一つの特徴は外国から入ってきて野生の状態で生育している帰化植物が多いということです。帰化植物はその土地が人工的であればあるほど多くなると言われています。遊歩道には薄いオレンジの花をつけるナガミヒナゲシ、青紫色の花をつけるマツバウンラン、川では薄い紫の花のハナダイコン、黄色い花のキショウブ、イネ科のオオスズメノカタビラなどの帰化植物が多数みられました。現在49種類の帰化植物が確認されています。

調整池の広場から池に続く斜面下にはメタセコイアが二本ほど植栽され、天を見上げています。この木は、最初は化石で発見されました。全世界からこの木は無くなってしまっていて化石のみの植物だと考えられていました。命名者は日本人です。ところが中国で生きていたのです。つまりは生きていた化石の木ということになります。調整池と真光寺川の間は道路になっています。ここの街路樹はハナミズキです。この木は大正時代の初期に東京市長が米国にサクラを送り、その返礼の樹木です。花のホウが白、ピンクで、果実は赤、紅葉は赤、花よし、実よし、紅葉よしと三拍子そろった木です。

最後に人が集う下堰親水場の植栽植物にふれておきます。ここには一際こい緑のヤマモモ、イチヨウ、サルスベリ、クスノキ、ムクゲなどが植栽されています。広場の中央には新葉が出ると前年の葉が落ちることから代を譲るとしてめでたい木、ユズリハが植えられています。植栽樹木として遊歩道にはキンモクセイが多いのも特徴です。

(写真と文 吉田 三夫)

## 真光寺川祭りー残念ながら中止します

こども達に川で遊び、自然に親しんでもらいたいと考え、2002年から毎年7月末頃に真光寺川まつりを開催してきました。この間、一昨年は水の汚れで開催を見送りました。今年は残念ながら一昨年につづき真光寺川まつり2012は中止と致します。その理由は「川が汚い」からです。6月初めの下堰親水のCOD（化学的酸素要求量）は5程度でキレイとは言えません。また見た目でも汚れているからです。川底にはワカメのような藻がビッシリ生え、断続的にアオコの分解されたものが流れています。これではこども達に川に親しみ、楽しんでもらうという意図が逆効果になると判断したからです。来年は是非開催できるよう川の環境を改善したいものです。

## 町田市民大学「まちだ de エコ・ツアー」の受講生 真光寺川に来る

6月10日(日)午前9:30真光寺川下堰親水集合で町田市民大学「まちだ de エコ・ツアー」の体験講座が実施されました。参加した受講生6人、市民大学のスタッフ3人それに真光寺川の例会で清掃に来られたメンバーでまずは顔合わせをしました。この日は朝から陽射しの強い暑い日で川に入るには絶好の陽気でした。スケジュール等の説明を山本が行い、エコネット町田の瀬川会長から簡単に

エコネット町田の紹介と川掃除参加への呼びかけが行われました。次いで川掃除の体験で、火鉢みとゴミ袋を持ち1隊は黒田さんの案内で新矢崎橋上流から川に降り清掃、川に入らない1隊は山口さんの引率で下堰～開戸親水(鶴見川との合流地点)の遊歩道のゴミ拾いを約40分行いました。

次いで下堰親水で透視度の検査を松尾さんの指導で実施、透視度約85cm恩田川の水との比較も行いました。その後CODの検査を山本の案内で実施しましたCOD約5。さらに水生生物調査のやり方を山岡さんが説明し、

川底の生物を実際に観察しました。トビゲラやヒル類が沢山見られました。12時少し前に解散。参加された受講生と説明側ともすっかり仲良くなり、和気あいあいの2時間半でした。

(山本記)



水生生物調査の説明を受ける

## 白濁水について町田市環境保全課と協議しました

すでに4月号で白濁水についてお伝えしましたが、5月に入り白濁水が乗馬クラブ「クレイン東京」(真光寺町1227番地)から流出していることを突き止めました。即座に同社を訪問し流出を止めるよう要請するとともに、5月15日には町田市環境保全課を訪問し同社に流出停止を指導するよう要請しました。当日は当会から山本会長はじめ4名が参加、同課規制指導係から志賀係長など3名の方に対応をいただきました。

同課からは、流出している白濁水は水質汚濁防止法上の問題はないが、馬場の砂の定期的入れ替え(年2回、費用1回3000万円)によって白濁水を抑えるよう対策を講じていること、さらに同社から馬場に雨水が入らないよう屋根をつけることや馬場の雨水を川ではなく下水管に流すことができないか等の相談を受けているが、いずれも行政上のネックがあり、さらなる改善策がない状況であること、今後とも排水の監視を行うよう指導すると説明を受けました。

白濁水に法律上の問題がないとしても、現状の対応だけでは川の水質は悪化傾向にあります。当会としては水質の抜本的改善に向けて市会議員や専門家等とも相談し、今後の対応を検討していきます。

(文 黒田健夫)

## 8月の清掃日は12日(第二日曜日)です。一緒に川を綺麗にしませんか

川の中や川の周辺のごみを拾います。一般の方々のご参加、大歓迎です。

☆ スケジュール 9:30 下堰親水場 集合

9:45 ~11:30 開戸親水場～神明橋間の清掃作業

12:30

解散予定

11:30 ~12:30 休憩と打ち合わせ(イチョウ会館)

『<http://www.shinkojigawa.com/>』 ホームページへご意見感想をお寄せ下さい

『真光寺川 里親の会』会長:山本隆治 町田市広袴 3-24-11 e-mail [ryuji.yamamoto@beach.ocn.ne.jp](mailto:ryuji.yamamoto@beach.ocn.ne.jp)

事務局:町田市能ヶ谷 7-32-10 黒田健夫 Tel/Fax 042-708-4269 e-mail [kawasemi@shinkojigawa.com](mailto:kawasemi@shinkojigawa.com)